

## 視点・論点

# 派兵恒久法反対運動と「5・3憲法集会」、「9条世界会議」の現状 高田 健

改憲派のプリンスとして「任期中の明文改憲」を掲げた安倍晋三首相は内外の困難の前に昨春秋、政権を投げ出した。代わって登場した福田康夫首相は、米国の要求に従って衆院再議決など異常な手段でしゃにむにインド洋給油新法を強行したあと、安倍の改憲戦略とは異なり、中長期的な明文改憲実現とあわせて、当面は自衛隊海外派兵恒久法の制定をめざすという戦略構想を描いているようだ。米国や財界の要求する明文改憲による集団的自衛権の行使の実現に踏み込みきれない福田内閣としては、この派兵恒久法の立法化でしのご以外にないところに追い込まれているわけだ。

福田康夫首相はもともと小泉内閣の官房長官時代に、私的諮問機関を設置し派兵恒久法の検討に手をつけた過去を持っている。閣僚の一部からはこの通常国会中にも法案を作成し、秋の臨時国会で成立させるという構想も漏れ聞こえてくる。しかし、現在、自衛隊にまつわる問題続出で法案作成のための与党協議が遅れており、派兵恒久法の形として存在するものは○六年に石破茂が中心になって作った「国際平和協力法案」以外にない。しかし、これとはんでもない悪法案で自衛隊がいつでもどこでも海外で武力行使ができるようになるという、究極の解釈改憲案、9条破壊の法案である。この法案の下では自衛隊はいま全世界で米軍の戦争と常に行動を共にしているイギリス軍並みになりかねないものだ。石破試案の危険性を暴露し、同法の成立を許さない闘いは当面の反戦平和や憲法に関連する課題では、最大の政治的課題になっているととらえておくべきである。

二〇〇一年以来八回目を数える共同の集会である「二〇〇八年5・3憲法集会」はこの自衛隊海外派兵恒久法に反対する課題を鮮明にし、また五月四日から三日間、千葉県幕張メッセをはじめ仙台、大阪、広島などで開催される「9条世界会議」に連帯する立場から、ゲストスピーカーに米国の反戦団体「コードピンク」のアン・ライトさん（元米陸軍大佐、9条世

界会議の参加者）を招いて、三日一三時三〇分から日比谷公会堂で開かれる。スピーカーはほかに音楽評論家の湯川れい子さんと志位和夫共産党委員長、福島瑞穂社民党党首などだ。

一方、各地あわせて約二万人規模で開かれる「9条世界会議」は、いま派兵恒久法を持って世界的規模で武力行使をしようとしている日本の自衛隊の動きに対抗する国際的な市民運動の画期的な取り組みとなるにちがいない。「9条世界会議」は一九九九年五月に出された「ハーグ平和アピール」（各国議会は、日本国憲法第9条のような、政府が戦争をすることを禁止する決議を採択すべきである」と呼びかけた）や、二〇〇六年六月にバンクーバーで開催された「世界平和フォーラム」（最終文書で、各国政府が「日本の9条のように憲法で戦争を放棄すること」を求めた）について、「武力で平和は作れない」と日本国憲法の第9条のような考え方の価値を確認する国際的な潮流の上にある、画期的な企画である。すでに二月二四日に広島を出発したピースウォークが五月三日の日比谷、四日の幕張をめざして、山陽道、東海道を歩いてキャンペーンしており、多くの注目を集めている。幕張メッセで開かれる4日の全体集会、五日の分科会などの企画は盛りだくさんで、充実した企画となっているし、六日には内外の参加者たちによる「宣言」が採択される予定だ。詳しくはホームページ（<http://www.whynot9.jp/>）をご覧ください。

私たちは自衛隊海外派兵恒久法のような悪法の成立をめざしている福田康夫内閣に対抗して、全世界の市民と共に平和をめざす日本の市民運動の飛躍をかけて、この9条世界会議の成功をかちとろうとしている。ご協力をお願いします。（03 3221 4668）

（たかだ・けん/許すな！憲法改悪・市民連絡会）